

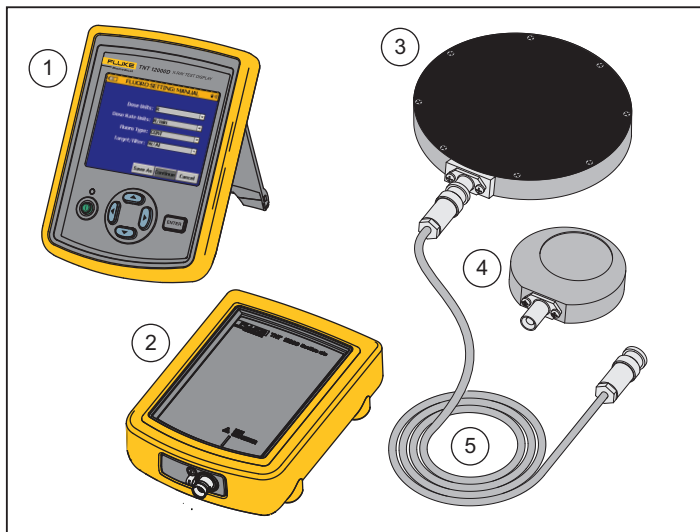
TNT 12000 DoseMate

Dosimeter Detector

クイック・リファレンス・ガイド

はじめに

TNT 12000 DoseMate は、線量と線量率をすばやく正確に測定できます。図 1 と表 1 は、これらの測定で使用する標準的な TNT 12000 コンポーネントを示しています。



grk01.eps

図 1. TNT 12000 コンポーネント

PN 4066000

June 2011, Rev. 1 (Japanese)

© 2011 Fluke Corporation, All rights reserved. Printed in U.S.A.

All product names are trademarks of their respective companies.

表1. TNT 12000 コンポーネント

項目	説明
①	TNT 12000WD X 線テストディスプレイ
②	TNT 12000 DoseMate
③	150 cc 電離箱
④	15 cc 電離箱
⑤	TRIAX 電離箱ケーブル

測定の設定

警告

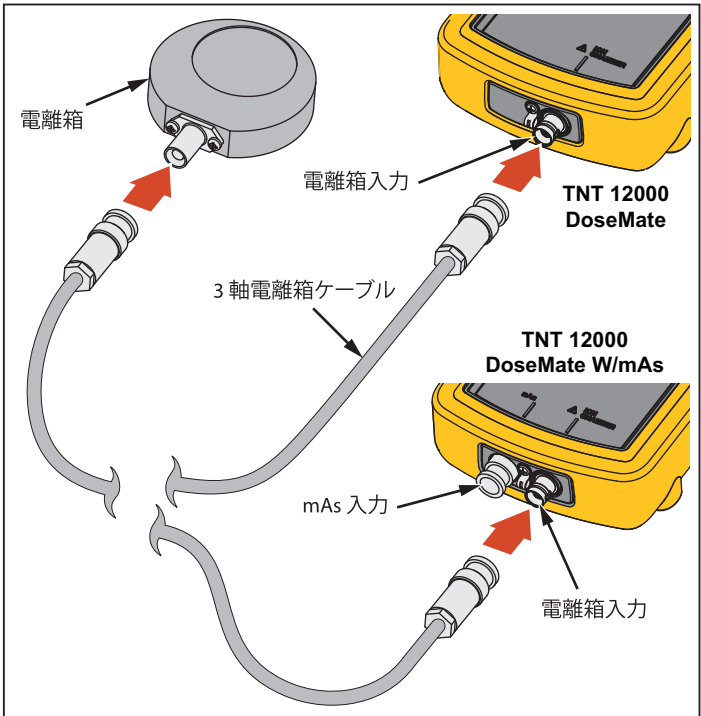
感電や電離箱の破損を防止するため、電離箱および3軸ケーブルを着脱する前に、DoseMateの電源を切ってください。電流は制限されていますが、中心ピンと内部シールドシェルは、外部シェルより300ボルト以上高い電圧で動作します。

注:

使用前にDoseMateとX線テストディスプレイが充電されていることを確認します。『TNT 12000取扱説明書』の充電方法の項を参照してください。

電離箱の接続

防塵キャップを取り外し、図 2 のように、DoseMate を電離箱に接続します。



grq02.eps

図 2. 電離箱の接続

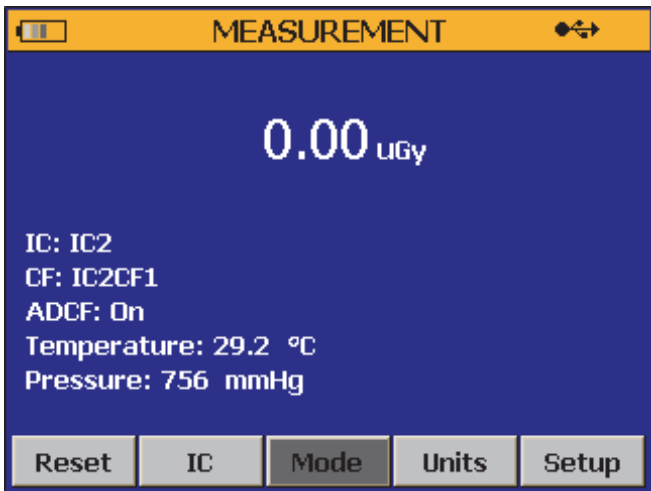
電離箱を X 線ビーム中心部の安定した面に設置します。

電源投入

DoseMate とディスプレイの電源を入れます。ディスプレイは検出器を探し、見つかると接続を実行します。USB 接続またはワイヤレス接続に対応しています。図 3 の **[MEASUREMENT (測定)]** 画面がディスプレイに表示されます。

注

DoseMate に内蔵 mAs 検出器が搭載されている場合は、測定画面の前に接続画面が表示されます。▲ または ▼ を使用して、DoseMate 検出器をハイライトし、▶ または ◀ を使用して **[Connect (接続)]** ボタンをハイライトします。[ENTER] を押して接続すると、図 3 に示す **[MEASUREMENT (測定)]** 画面が表示されます。



grk03.png

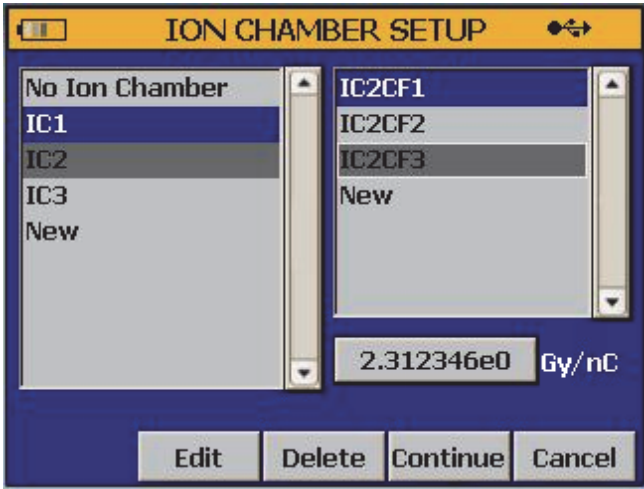
図 3. **[MEASUREMENT (測定)]** 画面

詳細については、『TNT 12000 取扱説明書』のシステムの設定の項を参照してください。

電離箱の選択

DoseMate で電離箱を選択し、校正係数を設定するには:

1. **[MEASUREMENT (測定)]** 画面で **⏏** または **⏏** を押して、**[IC]** ボタンをハイライトします。
2. **[ENTER]** を押して、ディスプレイに図4の **[ION CHAMBER SETUP (電離箱の設定)]** 画面を表示します。



fct241.png

図 4. **[ION CHAMBER SETUP (電離箱の設定)]** 画面

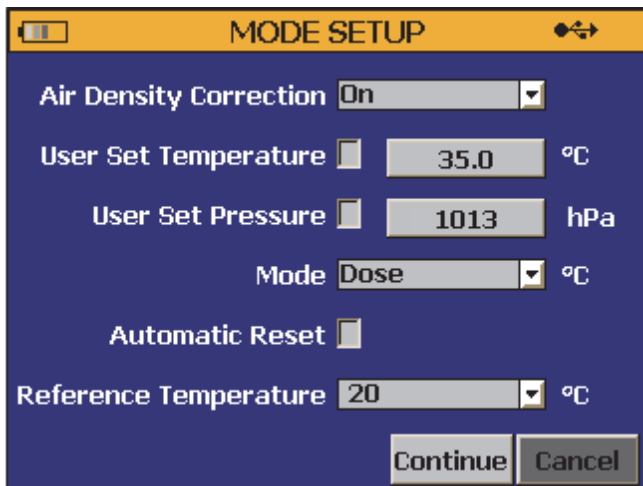
3. **⏏** または **⏏** を押して、左フレームで特定の電離箱 ID をハイライトし、**[ENTER]** を押します。カーソルが右フレームに移動します。
4. **⏏** または **⏏** を押して、校正係数をハイライトし、**[ENTER]** を押します。カーソルが **[Continue (続行)]** ボタンに移動します。
5. **[ENTER]** を押して、**[MESUREMENT (測定)]** 画面に戻ります。

電離箱と校正係数の詳細については、『*TNT 12000 取扱説明書*』の線量計の使用方法の項を参照してください。

測定モードの設定

測定モードを設定するには:

1. **▶** または **◀** を押して、測定画面下部の **[Mode (モード)]** ボタンをハイライトします。**[ENTER]** を押して、図 5 の **[MODE SETUP (モード設定)]** 画面を表示します。



fct250.png

図 5. **[MODE SETUP (モード設定)]** 画面

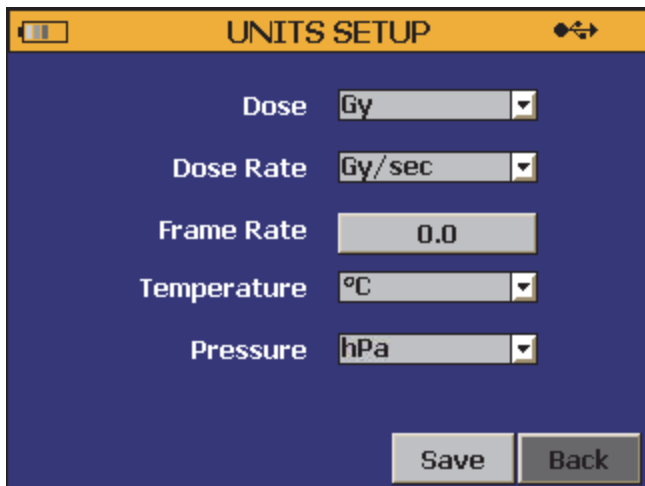
2. **▲** または **▼** を押して、**[Mode (モード)]** コンボボックスをハイライトし、**[ENTER]** を押してドロップダウンリストを開きます。
3. **▲** または **▼** を押して、**[Dose (線量)]** モードをハイライトし、**[ENTER]** を押します。
4. **▼** を押して、**[Automatic Reset (自動リセット)]** チェックボックスをハイライトし、**[ENTER]** を押してチェックボックスをオンにします。
5. **▼** を押して、**[Continue (続行)]** ボタンをハイライトし、**[ENTER]** を押して **[MEASUREMENT (測定)]** 画面に戻ります。

測定モードの詳細については、『**TNT 12000 取扱説明書**』の測定モードの選択の項を参照してください。

測定単位の設定

測定単位を設定するには:

1. **▶** または **◀** を押して、測定画面下部の **[Units (単位)]** ボタンをハイライトします。**[ENTER]** を押して、図 6 の **[UNITS SETUP (単位の設定)]** 画面を表示します。 .



fct252.png

図 6. **[UNITS SETUP (単位の設定)]** 画面

2. **▲** または **▼** を押して、**[Dose (線量)]** コンボボックスをハイライトし、**[ENTER]** を押してドロップダウンリストを開きます。
3. **▲** または **▼** を押して線量単位 (**[R]** または **[Gy]**) をハイライトし、**[ENTER]** を押します。
4. **▼** を押して、**[Save (保存)]** ボタンをハイライトし、**[ENTER]** を押して測定画面に戻ります。

測定の実行

注

DoseMate が照射野に入らないようにします。電離箱のみが曝射されるようにします。

1. X線機器を標準X線技術用に設定します。
2. 「**Resetting ... Please Wait...**(リセットしています... しばらくお待ちください...)」というメッセージがディスプレイから消えてから、X線を曝射してください。
3. 曝射が検出されると、ビーブ音が鳴り、測定結果がディスプレイに表示されます。

次のX線曝射測定が準備できるまで、測定画面下部に「**Resetting ... Please Wait...** (リセットしています... しばらくお待ちください...)」というメッセージが表示されます。**DoseMate** での測定の実行は、このメッセージがディスプレイに表示されていないときのみ可能です。